

米国で進行中の牛海綿状脳症サーベイランスプランの 評価のためのピアレビュー(概要)

APHIS は、進行中のサーベイランスプランが、OIE の「タイプ A」サーベイランス勧告事項に適合している、あるいはそれ以上であり、BSE リスクの抑制に基づいて科学的政策及び取り締まりの決定が指導されていることを確認するため、進行中のサーベイランスプランのレビューを必要としている。RTI インターナショナルに協力を要請し、RTI は、3 名の専門家を特定し、業務証明書に従ってピアレビューを実施した。

3 名のレビューアのうち 2 名は、サンプル規模の評価としては、年間 4 万サンプルで十分であり、OIE による「タイプ A」サーベイランスの要件を上回っていることに同意した。彼らは、サンプルプランを改善するためのいくつかの提案事項を除き、サンプルプランを評価するために APHIS がたてた仮説の大半について同意した。これらのレビューアは、所用サンプル規模を縮小するために考えられる方法についても示唆した。例えば、Dr. Gardner は、ベジアンアプローチを使用して、米国のフィードバンの影響を検討することを提案し、一方、Dr. MacDiarmid は、3 つのサーベイランスストリームの各自のサンプルの比率を変更することを提案した。さらにサーベイランスプランを改善するため、Dr. MacDiarmid は、農民からの擬似症状の報告数を増やし、プログラムをより緊密に家畜にフォーカスし、より多くの「分析ポイント」を提供するため、全米レベルで実施が可能と考えられる方針を提案した。Dr. Gardner は、所用サンプル規模の評価について、APHIS がサーベイランスストリーム全体の感度を検討することを推奨した。

3 人目のレビューア、Dr. Morris は、サンプル規模は OIE による「タイプ A」サーベイランスの要件に「多分」適合していると意見を述べた。今後のサーベイランスプランでは、家畜の年齢を正確に調査し、現在の分析における年齢推定の不備について注意深く検討するべきだというのが、Dr. Morris の主張である。同氏は、サンプルまたはテストごとの「分析ポイント」に関する APHIS の評価の正確さ、あるいは健全さについても疑問を投げかけた。同氏は、さらに、補足説明、あるいは詳細事項であるとされる文書及び分析その他の点についても指摘した。とりわけ、地理係数及びリスク係数に基づいて、リスクの高い小区分の飼育牛のサーベイランスプランをさらに強化することを推奨した。

Dr. Morris のレビューは、レビューアの責務の範囲外の、いくつかの追加項目にフォーカスしている。とはいえ、これらのコメントは、BSE 有病率及び過去のサーベイランスプランのデータに関するこれまでの評価を取り上げている。これらのコメントは、責務の範囲を超えており、直接的な関係はないとはいえ、客観的レビューの精神に基づき、本報告書のアネックスとして挿入することにした。